

特別栽培米研究部会 活活楽楽篤農クラブ
IKIIRAKURAKUTOKUNOUCUB



特別栽培米
環境こだわり農産物

2018年 栽培日記

JA滋賀蒲生町



Vol.4 ハウス管理編

[2018.04.27]

今年は、4月から比較的気温の高い日が多くなり、連日汗を流しながら育苗作業を続けています。苗箱は職員が天候をみながら温度と水をしっかり管理し、生産者の方にお渡しするまで大切に育てられます。

今年は育苗作業が始まった頃から気温が高い日が多く、特に天気の良い日中のハウス内はサウナのようになり、入るだけで汗が噴き出てきます。そんな中、担当職員は汗を拭き、水分補給しながら頑張っています。

稲苗も人間と一緒に高温や水不足は大敵で、必要以上の高温や水不足は「**苗焼け**」の原因となります。そうならないようにするために、温度と水の管理が必要なんです！

稲苗が快適な環境で生育できるように、日中のハウス内温度を **20℃～25℃** に保つようにハウスの窓を開閉し換気をして温度調節をします。30℃を超えると「苗焼け」する可能性があります。またハウス内が **5℃** 以下になると低温で稲苗の成長の妨げとなるので、夜間の管理も必要です。

ハウス内の温度管理と同じく水の管理も大変重要です。水不足になると苗の葉が針のようになってしまいます。またやり過ぎると苗が徒長して倒伏の原因となります。基本的に1日2回朝昼にハウス内のスプリンクラー作動して水やりをしています。

このように天候や気温の変化に合わせて育苗に適した温度や水の調整をし、生産者の皆さまに稲苗をお渡しするまで大切に育苗しています。



↑ハウス側面の窓を開けて換気します



↑スプリンクラーで散水中



↑生育中の稲苗（元気に育ってます！）